

付 属 年 表

南部フィリピン、カンボジア、ラオス、カシミール、インド、スリランカ

	南部フィリピン	カンボジア	ラオス	カシミール	インド	スリランカ
1900			フランス、首都をピエ ンチャンに定める			
01			ポーカドウアット率い るラーオ族農民の反乱、 ボラベーン高原でのカ ー族、アラク族による 反乱			
02						
03	米國植民地政府、モロ 州軍政開始（～13）					
04						
05						
06						
07		フランス・シヤム条約。フランス・シヤム条約、 西部3州、カンボジア、バタタンバンとシエム に逐遷される	リアップを仏領カンボ ジアに割譲		イギリス植民地政府が ベンガル分割令を發令、 各地で反対運動展開 会議派がスワラージ （自治）決議	
08						
09						
1910						
11						
12						
13	ミンダナオ島への入植 開始					
14						
15	政治制度としてのスー ルーのスルタン制廃止 （カーベントナー＝キラ ム協定）					マハトマ・ガンディー が南アフリカから帰国

16		
17	パーチャイ察いるモン	
18	族による反乱	
19		会議派がガンデイー 主導で第1次サテイヤ ーグラハ闘争開始（～ 1922年）
1920		ベンガル分割令撤回
21		
22		
23		
24		
25		
26	フランス・シヤム条約、 ラオス西側の境界画定	
27		
28		
29		会議派がプールナスワ ラージ（完全自治）決 議
1930	インドシナ共産党創設	会議派が第2次サテ イヤーグラハ闘争開始 （～1934年）
31		普通選挙制度導入
32		
33	インドシナ共産党、ラ オス地方委員会を結成	カシミール藩王国で 住民の政治参加運動が 高まり、初の民衆議会 （PrajaSabha）が設置 される。
34		

	南部フイリピン	カンボジア	ラオス	カシミール	インド	スリランカ
35	コモンウェルス政府 (独立準備政府) 発足。ミンダナオ島への入植さらに進展				インド統治令発令, これに基づき1937年に州議会選挙, 会議派が大勝	
36						
37						
38						
39						
1940			タイ・仏印戦争勃発		ムスリム連盟がムスリム国家独立要求を決議	
41		フランス・ラオス保護条約, ルアンパバーン王国の地位を強化				
42	日本占領 (~45)。武器の拡散				会議派がクワイットインドイデア (インドを立ち去れ) 運動を開始	
43						
44			日本の敗戦を契機に抗仏独立運動が本格化			
45						
46	フイリピン共和国独立	フランスと保護条約調印				
47					インド・パキスタン分離独立。カシ米尔で交戦が始まる。灌王がインドへの帰属議定書に署名	イギリス領インドが分離して独立
48					第1次インド・パキスタン戦争 (49年1月停戦)	マハトマ・ガンディー英連邦内の自治領として独立
49			フランス・ラオス独立協定, フランス連合内でラオスが独立		国連インド・パキスタン委員会決議。帰属問題を住民投票で決するよう勧告	

1950	クメール・イサラク統一戦線、樹立 クメール人民革命党結成準備委員会、設立	ラオス自由戦線と抗戦政府樹立	インド憲法施行
51			第1次連邦下院選挙実施。会議派政権（ネルー首相）が成立
52			ジャンムー・カシミール州のアブドゥッラー首相がインド併合反対運動。独立か自治領化を要求
53	カンボジア王国、対仏独立宣言	シェイフ・アブドゥッラー州首相連捕	
54	ジュネーブ協定締結。クメール・イサラク勢力の指導部らが北ベトナムへ出国	ジュネーブ協定により停戦	ジャンムー・カシミール州制憲議会、インドへの加入案を批准
55		ラオス人民党結成	
56		ラオス自由戦線、ラオス愛国戦線に改組	言語を基準にして州が再編される
57		パテート・ラーオと王国政府、第1次連合政府を樹立	シンハラオインリー制定し、シンハラ語を公用語とする
58		パテート・ラーオと王国政府による内戦が本格化	
59			S.W.R.D.、バンダラナイを暗殺される
1960	クメール人民革命党第2回党大会	インド・レ大尉によるクーデター発生	インド・パキスタン間のインダス川水利協定締結
61			
62		ジュネーブ協定調印、第2次連合政府樹立	中国と国境紛争。北東インドに中国軍が侵攻
63	ポルポト、クメール人民革命党書記長就任		

	南部フィリピン	カンボジア	ラオス	カシミール	インド	スリランカ
64			アメリカによる空爆が本格化		ネルー首相死去、後任首相にシヤストリ就任	
65	マルコス政権発足			第2次インド・パキスタン戦争（同月停戦）		
66					シヤストリ首相死去、後任首相にインディラ・ガンディー（ネルーの娘）が就く	
67			テト攻勢（ベトナム）			
68	ジャバタダ事件（軍によるムスリム特殊訓練兵殺害事件）。ミンダナオ独立運動発足					
69					会議派が分裂	
1970		このころ、モロ民族解放戦線（MNLF）結成（議長ミスアリ）				
70						
71	ミンダナオ島中部で私兵、自警団による民間人虐殺事件頻発。マニラで暴動。ルコス、戒厳令布告。MNLF 武装闘争開始	ロンノル内閣、シハスーク国家元首を追放。シハスーク、民族統一戦線を結成		第3次インド・パキスタン戦争（同月停戦）	第3次インド・パキスタン戦争の結果、東パキスタンがバングラデシュとして独立	JVP、警察署を襲撃
72			ラオス人民党、ラオス人民革命党に改称	第3次インド・パキスタン戦争の戦後処理のため、両国間で「シムラ協定」が調印される。		英領から正式独立。国名をスリランカ共和国にして、共和国憲法公布
73			ラオスにおける平和回復と民族和合に関する協定調印			
74			第3次連合政府樹立	アーン・カシミール暫定憲法制定	インドが第1回地下核実験実施	

75	民族統一戦線、ブノンベン入城	全国人民代表者大会が開権され、王制の廃止とラオス人民民主共和国樹立を宣言	ジャングル州でシエイク・アブドゥラウラー内閣成立	国内非常事態宣言を發令、野党指導者を大量逮捕、言論弾圧。インドがシッキムを併合	ブラバカラン、LTTEを創設
76	トリポリ和平協定			非常事態宣言撤回される。続く第6次連邦下院選挙で会議派が惨敗し初の非会議派政権が誕生	経済自由化開始
77	サラマト、ミスアリと対立し、MNLF分派形成		ラロス・ベトナム友好協力条約締結		
78		救国民族統一戦線、結成			新憲法制定、執行権を持つ大統領制導入。シヤワラルダナ大統領に就任
79		救国民族統一戦線とベトナム軍が、カンボジア共産党中央を放逐			
1980					
81					
82					
83	アキノ元上院議員暗殺。以降、反マルコス民主化運動の高揚	民主カンブチア連合政府（三派連合政府）結成宣言	ジャングル州議会選挙。ファルク・アブドゥラウラー内閣成立		コロンボで反タミル人暴動
84	MNLFサラマト派、モロ・イスラーム解放戦線(MILF)と改称			インド軍がシク教総本山黄金寺院を攻撃、シク教徒反政府武装集団を掃討。シク教徒によりインディラ・ガンデー首相暗殺。ラジーヴ・ガンデーが後任首相に就く	

	南部フイリピン	カンボジア	ラオス	カシミール	インド	スリランカ
85					南アジア地域協力連合が發足。南アジア7カ国が参加	
86	ビープル・パワー革命、アキノ政権成立。		チンタナカラン・マイ(新思想)政策による市場経済化開始			
87	新憲法制定					インド・スリランカ和平協定。インドは、スリランカにインド平和維持軍 (IPKF) を派遣。JVP内乱 (~89年)
88						
89		ベトナム軍、撤退完了		カシミール武装闘争の開始。ヒズブル・ムジヤーヒデイン結成。		ブレマダダーサ大統領就任
1990	ムスリム・ミンダナオ自治地域 (ARMM) 發足 (南ラナオ州、マギンダナオ州、スーラー州、タウイタウイ州)			第1回インド・パキスタン次官級協議 (インド・パキスタン対話の開始)		スリランカからインド平和維持軍が撤退。シヤフナガがLTTEの実質的な支配下に
91		バリ和平協定締結	憲法制定			
92	ラモス政権 發足。MNLFとの和平交渉開始				ラジヴ・ガンデイー前首相がスリランカのLTTEにより暗殺される。政府が経済自由化の新産業政策を發表	
93		制憲議会選挙 (第1回総選挙) 実施。1993年憲法発布			北インドのアヨーディヤ市にあるモスクがヒンドゥー主義団体により破壊され、連鎖的に各地で暴動発生	ブレマダダーサ大統領暗殺される

94					チャンドリカ・パンダ ラナイケ・クマラトゥ ンガ大統領就任 ジャフナを政府軍が奪 還
95					
96	MNLFと和平協定締 結。南部フイリピン和 平開発評議会設置。ミ スアリ、ARMM長官 に就任。				ヒンドゥー主義政党バ ーラティヤー・ジャナ タ党による初めての中 央政権樹立、13日で崩 壊
97		ASEAN加盟			インドとパキスタンが 地下核実験
98	エストラータ政権発足、実施	ASEAN加盟			チャンドリカ大統領暗 殺未遂
99		ASEAN加盟			
2000	エストラータ政権。 MILFへの大規模軍事 攻撃	反政府活動と見られる 連続爆弾事件が首都ビ エンチャンで発生	インド・パキスタン 首相がパキスタンのラ ホールで会談（2月）。 5月から7月にかけて インド・パキスタン両 軍がカシミール・カー ギル地区で交戦。パキ スタンでクーデター（10 月）		
01	エストラータ政権崩 壊。アロヨ政権発足。 MILFとの和平交渉 開始。MNLF内紛、ミ スアリ失脚。ARMM にバシラン州、マラ ウィ市参加。フミン、 ARMM長官就任				

	南部フィリピン	カンボジア	ラオス	カシミール	インド	スリランカ
02				パキスタンのムシャラフ大統領がカシミールの過激派5団体を非合法化	グジャラート州ゴードラで列車が襲撃、放火され乗客57人が死亡。続いてヒンドゥーによるムスリム襲撃事件が多発。	政府とLTTE、ノルウェーの仲介で停戦合意
03	プノンペンで反タイ暴動		国家シンボルとしてフアーンダム王の銅像を建設			

カザフスタン、イラク、シエラレオネ、ルワンダ、ケニア、南アフリカ

	カザフスタン	イラク	シエラレオネ	ルワンダ	ケニア	南アフリカ
1900						
01						
02						
03						
04						
05						
06						
07						
08						
09						
1910						南アフリカ連邦成立
11						
12						
13						
14		イギリス軍、バサラ占領				
15						
16	1916年反乱（中央アジアの民衆が、戦線後方労働を命じたロシア皇帝の勅命に反発）					ドイツ軍が撤退、代わってベベルギー軍が統治開始
17	ロシア革命。カザフ知識人が自治政府「アラシュ・オルダ」樹立	イギリス軍、バグダード占領				
18						
19						フリータウンで鉄道労働者ストライキと反シリア人・レバノン人暴動発生

	カザフスタン	イラク	シエラレオネ	ルワンダ	ケニア	南アフリカ
1920	アラシユ・オルダダ消滅。ソビエト政権下でロシア共和国領内にキルギス自治共和国(「キルギス」はカザフの誤称)成立	イラク中南部で大規模な反英暴動発生			イギリスの東アフリカ保護領、ケニア植民地となる	
21		ハーシム家フアイサルを初代国王とするイラク王国の成立。イギリスの委任統治開始				
22	ソビエト連邦成立					
23						
24	中央アジアで民族別国境画定実施					
25	カザク自治共和国に改称	国際連盟、モースルのイラクク婦属を決定		正式にベルギーの委任統治領となる	KCA (キクユ人中央協会) 設立	
26						
27						
28					ケニヤッタ, KCA 書記長に就任	
29	全面的農業集団化・遊牧民の強制的定住化開始					
1930						
31			ダイヤモンド鉱発見			
32		イラク王国、独立				
33		イラク軍によるアッシリア人への弾圧				
34						
35		南部ユーフラテス流域の部族反乱				
						国王ムシंगा、ベルギーにより退位させられる

36	ソ連邦を構成するカザフ共和国に昇格。大粛清 (~1938)		
37	ガイラーニーニ-反英軍事内閣成立	英領ナイジェリアの原住民統治制度モデルが保護領に導入される	
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			国連成立に伴い、信託統治領となる
46			KAU (ケニアアフリカー人同盟) 設立
47			
48	バグダードで対英条約反対の大規模暴動		ケニヤッタ, KAU 総裁に就任
49			国民党政権樹立。初のアフリカーナー単独政権となる
1950			
51			
52			シエラレオネ人民党 (SLPP) 創設 選挙で SLPP 勝利
53			
54	北部で「処女地開拓」開始		土地解放闘争の激化に伴い戒厳令発令。ケニヤッタ投獄される
55			
			バグダード条約機構 (反ソ防衛網) を結成

	カザフスタン	イラク	シエラレオネ	ルワンダ	ケニア	南アフリカ
56						ホームランズに関するトムリンソン委員会報告提出
57		バーキル・アツ＝サド ルら、ダアワ党設立	選挙でSLPP 勝利	フトウ・エリートが政治的権利を求める宣言 （「バフトウ宣言」）を 発表	戒厳令解除	
58		共和制革命により王政 転覆				
59		モースルでアラバ民族 主義軍人による反乱／ キルクークでクルド住 民がトルココマン住民と 衝突		政党支持者間の衝突を 契機として、騒乱勃発。 「社会革命」へ		フルブールト首相、「パ ンツ－自治促進法」を 発表。「全面的アパル トヘイト」へ
1960	コナエフがカザフスタ ン共産党第一書記就任 （～1962, 1964～1986）		全人民会議（APC）が シアカ・スステイブレン ズを中心に創設される	地方議会選挙で、フト ウを基盤とする政党が 圧勝	のちに独立政府与党と なるKANU（ケニア アフリカ人全国同盟） 設立	ジャーブピル事件発 生。アフリカ民族会議 （ANC）とパン＝アフ リカ人会議（PAC）の 非合法化
61		カーシム首相、クウ エイトの領有権主張／ バルサニーニ率いるクル ド勢力、反乱	イギリスから独立	国民投票で王制廃止を 決議	ケニヤッタ釈放、 KANU総裁に就任	
62				独立。カイバンダが大 統領就任		
63		アーリフ（弟）政権成 立し、バアス党、9ヶ 月間政権に参与		トゥチ難民を中心とす るケリラの侵攻	イギリスから独立	リボニア事件。ANC 書記長シスル、マンデ ラら7名が逮捕され、 ロベン島に終身流刑
64			ミルトン・マルガイ首 相が死去し、異母弟の アルバート・マルガイ が国家元首に就任			
65						
66						

67	軍事クーデター発生		
68	バクルを大統領とする バアス党政権成立	軍事クーデター発生。の ちに、ステイブンス を首相とするAPC・ SLPP連立政権が樹立 される	
69			唯一の野党を非合法化 し、KANU一党支配 が確立
1970	クルド自治権を約束し た「三月宣言」の公布	ダイヤモンド産業国有 化	
71		共和制に移行してステ イブンスが大統領に 就任	
72	イラク・ソ連友好条約 締結		
73	イラク共産党、合法化 されバアス党政党と連 立	総選挙でAPCが圧勝	クーデターによりハリハビヤ リマナが大統領就任
74			
75	クルドとの自治交渉、 決裂。クルド反乱／イ ランとの間でアルジェ 協定締結		
76			ソウエト蜂起。アフリ カونس語の強制授業 に対する学生蜂起。54 名の死者
77	カルバラでシーア派 宗教儀礼が騒乱化	学生らによる反政府デ モ	
78		APCを唯一合法政党 とする一党制に移行	ケニヤッタが病死。副 大統領モイが大統領に「改革」の実施へ 就任
79	バクル辞任し、フセイ ンが大統領就任		

	カザフスタン	イラク	シエラレオネ	ルワンダ	ケニア	南アフリカ
1980		政府、バーキル・アツ＝サドルを処刑／イラン・イラク戦争開始	アフリカ統一機構(OAU)サミットがワリンターウンで開催される			
81						
82		イラン軍、イラク領内に逆侵攻			憲法改正によりKANU一党制に移行(6月)。空軍兵士によるクーデター未遂事件発生(8月)	
83						三院制の新憲法制定、統一民主戦線(UDF)結成
84		イラク、アメリカと国交回復				
85	ゴルバチョフがソ連共産党書記長に就任		ジョゼフ・モモ大統領就任			東ケープ、ヨハネスブルグ、ヨハネスブルグ東部の工業地帯に非常事態宣言
86	ベレストロイカ(「建て直し」=改革)開始。アルマ・アタ事件				総選挙のためのKANU予備選挙における秘密投票が廃止される	
87			シエラレオネ人の反政府活動家がリビアのベングジで軍事訓練を受ける(～1988年)			
88		クルドに対する化学兵器攻撃／イラン・イラク戦争停戦				
89	ナザルバエフがカザフスタン共産党第一書記就任。カザフ語を国家語と定めた言語法採択					FWデクラークが大統領に選出

1990	ナザバエフがカザフスタン大統領に就任。イラクに対するカザフスタンの主権宣言	イラク軍にクウェイトを攻撃。イラクに対する国連経済制裁開始	シエラレオネ革命統一戦線 (RUF) が武装蜂起。紛争勃発	ルワンダ愛国戦線 (RPF) の侵攻により内戦勃発	ANC、PAC、南ア共産党 (SACP) の非合法解除、ネルソン・マンデラ釈放。ANC支持者とイニカタ自由党 (IFP) 支持者間の対立激化
91	大統領選挙でナザバエフ再選。カザフスタンの独立。ソ連邦崩壊	湾岸戦争／全国で反政府蜂起発生	シエラレオネ革命統一戦線 (RUF) が武装蜂起。紛争勃発	複数政党制導入	国民党と南ア会議 (CODESA) 開催
92		クルド地域で議会選挙実施し、自治政府成立	軍事クーデタ発生	アルーシヤで和平協定締結	ポイバトン大虐殺 (ANC 支持者殺害)
93	独立後初の憲法採択。			ハビヤリマナ大統領、搭乗機墜落により暗殺。全土で大虐殺。RPF が内戦に勝利し、新政権樹立。ピジムング大統領就任	多党間交渉フォーラム (MNF) 開催
94	議会解散 議会選挙				南ア史上初の全人種参加の国政選挙実施。マデララ大統領誕生と国民統一政府樹立
95	議会解散。国民投票により大統領の任期延長と新憲法採択を決定。議会選挙	西部スナナ部族が軍内で反乱／フセイン・カーミル、ヨルダンへ亡命 政府、「食糧のための石油」輸出を受け入れ	南アフリカの民間軍事企業エグゼクティブ・アウトカムズ社 (EO) が活動開始(～1997年)		
96			軍事クーデタ発生。選挙で SLPP が勝利し、アハメド・デジャン・カババーが大統領当選。アビジヤン和平協定調印	隣国ザイール (コンゴ民主共和国) の内戦に派兵 (～1997)	南アフリカ新憲法成立

	カザフスタン	イラク	シエラレオネ	ルワンダ	ケニア	南アフリカ
97	首都をアルマトゥカからアクモラ(現アスタナ)へ移転	イラク政府による国連査察団への妨害行為激化	RUF指導者フォード・サンコナーが身柄を拘束される。軍事クーデター発生。ECOWAS停戦監視団(ECOMOG)が介入	隣国コンゴ民主共和国の内戦に派兵(～2002)	リコニ事件発生(8月)複数政党制復帰後第2回の総選挙実施(12月)。KANUが勝利し、現職モイが大統領に再選	
98		英米によるイラク空爆。大量破壊兵器査察体制崩壊	ECOMOGが軍事政権を打倒し、カハバー政権復帰			真実和解委員会(TRC)最終報告書提出
99	大統領選挙でナザルバエフが再々選。議会選挙		RUFがフターウンに侵攻して激しい市街戦が展開される。ロメ和平協定調印			全人種参加の第二回国政選挙実施。ムベキ大統領就任
2000			国連シエラレオネ派遣団 (UNAMSIL) の兵士・軍事監視要員約500名がRUF側以身柄を拘束される。カハバー大統領が戦闘状態の終結と非常事態宣言の解除を正式に発表する。紛争終結。特別法廷設立	カガメ大統領就任		
01						
02		アメリカ、イラクを「悪の枢軸」と糾弾。イラクに査察受け入れのための国連安保理決議採択			複数政党制復帰後第3回の総選挙実施(12月)。3選禁止条項に従ってモイ出馬せず。選挙協力組織NARC(国民虹の連合)がKANUを破って勝利、新大統領にNARCのキバキが就任	
03		英米などによる対イラク戦争勃発、フセイン政権崩壊	特別法廷がリベリアのテイラー大統領を戦争犯罪で起訴。旧RUF代表のサンコナー獄死	内戦後初の大統領、会議員選挙実施。カガメ大統領当選。RPF勝利		